



IFALPA SEC COMM MTG in アブダビ報告

1. はじめに

2017年11月12日から14日まで、アラブ首長国連邦のアブダビにおいて、IFALPA Security (SEC) Committee Meeting が開催され、14の各国ALPAから24名（うちオブザーブ参加2名）が出席し、ALPA Japanからは2名のSEC委員が参加しました。

今回はIATA主催のAVSEC World (Aviation Security、保安関連の会議)がアブダビで開催されることに合わせ、同地での開催となりました。

2. SEC Committee の活動

保安関連で取り扱われるトピックは多岐にわたっており、時制を反映して、年度ごとに様々な内容について取り組んでいます。

現在、Security Committee で取り扱っているテーマには、下記のものがあります。

• Risk Based Security

- Screening
- Crew Differentiation
- Crew ID
- Behavioral Analysis

• Attacks against Civil Aircraft

- MANPADS (携行式ミサイル)
- Long range Missiles (長距離弾道ミサイル)
- EMI (Electronic Magnetic Interference 電磁妨害-GPSのジャミングなど)
- CBRN (生物、化学、放射性物質、核兵器など)

• Aircraft Security

- IFSO (Inflight Security Officer)
- Secondary Barriers
- Disruptive Passenger (粗暴旅客)
- Cargo

• Airport Security

• Security and Facilitation Policies and Positions

長距離弾道ミサイルについては、日本独自の取り組みについての質問があり、日本への飛行の懸念が伝えられました。

<http://flightservicebureau.org/heres-why-north-korean-missiles-are-now-a-real-threat-to-civil-aviation>



また、現在、以下の4つを Hot Topics としています。

- Cyber Threats
- Laser Attacks
- Flights into and Over Conflict Zones (紛争地域における飛行)
- UAS Security (無人航空機)

3. 会議の内容について

会議において Working Group の取り組みの報告がありました。

① 香港で行われた会議(前回)からの進捗について、以下の発行物があります。

< Position Paper の発行 >

- Laser Attacks (17POS04)
- Compromising Safety with Security Procedures (16POS12)
- Background Checks for Pilots (16POS13)
- Cyber Threats (16POS08)
- CCTV (17POS03)
- UAS Security (17POS05)

< Briefing Leaflet の発行 >

- Behavioural Detection as a Security Measure (16SECBL02)
- Cyber Threats (16SECBL01)

② 他会議体への出席報告と主な内容

ICAO Aviation Security Panel (AVSECP)

- ・ 国連の安全保障委員会の勧告により、ICAO として GASeP (Global Aviation Security Plan) を策定しました。主な目的は、航空業界内での Security Culture を醸成することです。(ただし、まだ Security Culture がどういうものかの定義はありません)
内容はドラフトの段階で、重要なのは実現可能なもので、かつ持続性のあるものとなることです。課題としては、Regulator、Industry と Stakeholder (パイロットもここに含まれる) 間で、Clear かつ Open な関係が築けるかどうか、ということが挙げられます。IFALPA としては、Working Group へのオブザーブ等で引き続き関与していきます。
- ・ レーザー攻撃への対応については、国などの機関各国の関心度が低いのが懸念されています。
- ・ 今後重要となってくるのは、機内は元より Landside Security との意見がありました。

③ 今後の日程について

AVSECP WGA17 (Working Group on Annex 17 "Security")

- ・ 2018年2月に開催される会議に Chairman が参加予定です。

AVSECP WGACS (Working Group on Air Cargo System)

- ・ IFALPA としての立場を出した方が良いのではという委員の意見があり、1月を目途にドラフトを作成予定です。

AVSECP WGGM (Working Group on Guidance Material)

- ・ 2018年1月に開催される会議に Vice Chairman が出席予定です。

AVSECP WGIAS (Working Group on Innovation in Aviation Security)

- ・会議日程が重なった為、出席者はありません。
- ・CCTV の件（機内や機外を撮影する閉回路のカメラ設置）については、IFALPA として意見を表明した事もあり、進捗はありません。
- ・IFALPA の立場としては、保安対策としては不可だが、安全性向上を目的とするならば問題はない、としています。但し、Downlink には反対の立場です。

AVSECP TF (Task Force) on RPAS (Remotely Piloted Aircraft System) Security

- ・国境を越えて飛行する事は稀なので、ICAO マターではないのでは？という議論もあります。
- ・報告について、各国のドローンへの対応について意見交換がありました。ドローンを飛ばす事自体が禁止となっている国、逆に共存を図る国もあり、対応は様々です。1機のドローンが空港に居た場合の影響を表した映像あります。 <https://vimeo.com/228662010>

ICAO WGTR (Working Group on Threat and Risk)

ICAO ENAVSECG (Europe and North Atlantic Aviation Security Group)

- ・保安関連のほぼ全ての議題が網羅された会議です。
- ・主な内容は、米国、英国で行った PED (Portable Electronic Device) の持込禁止措置、紛争地域での飛行、MANPADS への対応、Landside Security、レーザー攻撃、粗暴旅客について
- ・委員会での議論は、紛争地域への飛行、MANPADS への対応について
- ・安全を犠牲にしてまで飛行するべきではない、との Position Paper (16POS12) の内容を再確認しました。また、飛ばなくてはならない仲間がいるという事も考慮しなければならない、という意見もありました。

4. Hot Topics について

ーCyber Threats

- ・各国とも本腰を上げて取り組んでいない様子。セキュリティの専門家は、入り込めないネットワークはないと言い、メーカー側は、完全に防御されているので入りようがない、と説明しています。

ーLaser Attacks

- ・特記なし

ーFlights into and over Conflict Zones.

- ・紛争等のある国・地域を地図上に表示させるサイトの紹介がありました。

<http://safefairspace.net>

5. Risk Based Security

German Wings の事故の後に導入された Two Man in the Cockpit Rule について、IFALPA として Position Paper を出しましたが、各国で廃止の動きがあります。

[Minimum occupancy of the flight deck, ECA 2016.pdf](#)

6. Airport Security

モルディブのマレ空港において、降機した乗客がターミナルまで誘導されずに自由に動き回れるのは、保安・安全上問題ではないかとの問題提起があり、IFALPA として Briefing Leaflet もしくは Position Paper を作成する予定です。



7. 企業によるプレゼンテーション

欧州における保安体制に役立つ機器が開発されており、その中で以下のものが紹介されました。

Osprey — 世界の保安情報についての情報提供、飛行計画に生かせるようなサービスについて

Tudor — 航空機全体をスキャンし、不審物を検出する装置についてそれぞれインターネットを介しての映像があります。

8. 最後に

世界各国において、航空に関する保安体制の強化がなされていますが、ICAOが航空保安体制の世界標準の構築に向け、新たな会議体を立ち上げたことにより、私たちを取り巻く環境も今後大きく変化していくと思われま

す。今後、一般旅客、航空業務従事者に対する保安システムなども見直されていく事になりそうです。



以 上